

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	哲学 (Philosophy) 131022-14000					担当教員	鈴木 覚 (スズキ サトル)		
科目区分	教養科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	1年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要
哲学は本来「学ぶもの」というより「する」ものである。哲学を勉強しなくても、哲学することはできる。ただ、勉強して様々な考え方を学んだ方が、自分で哲学するとき役立つ。この授業では、西洋の古代哲学から現代哲学までを概観し、自分で哲学的に考えていくための様々な「思考のツール」を学ぶ。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
職業人として通用する能力を養う。
③ 授業の進め方・指示事項
主に講義形式で授業を進める。毎回授業の最後に、次回小テストに向けた課題を出す。翌週の授業の前半に、前回の課題に関する小テストを行う。小テストはGoogle Formsを使用するので、スマートフォン・タブレット等の用意が必要（忘れた場合は紙で対応）。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
特になし
⑤ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 哲学の基本概念を、判別したり、説明したりできる。 (ii) 哲学の基本概念を用いて哲学上の諸問題について論述できる。
⑥ テキスト（教科書）
テキストは指定しない。各回、資料を配布する。
⑦ 参考図書・指定図書
貫成人(2008)『図説・標準 哲学史』新書館

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 哲学の基本概念の判別・説明	哲学の基本概念に関して、資料等に頼らず判別したり、説明したりでき、授業内容を超えた学修成果を示している	哲学の基本概念に関して、資料等に頼らず判別したり、説明したりできる	哲学の基本概念に関して、資料等を見ながら、判別したり、説明したりできる	哲学の基本概念に関して、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて判別したり、説明したりできる	哲学の基本概念に関して、資料等を見ても、教員等の支援を受けても判別したり、説明したりできない
(ii) 哲学の基本概念を用いた論述	哲学の基本概念を用いて哲学上の諸問題について、資料等に頼らず論述でき、授業内容を超えた学修成果を示している	哲学の基本概念を用いて哲学上の諸問題について、資料等に頼らず論述できる	哲学の基本概念を用いて哲学上の諸問題について、資料等を見ながら論述できる	哲学の基本概念を用いて哲学上の諸問題について、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて論述できる	哲学の基本概念を用いて哲学上の諸問題について、資料等を見ても、教員等の支援を受けても論述できない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	70%	30%						100%
(i) 哲学の基本概念の判別・説明	40%	30%						70%
(ii) 哲学の基本概念を用いた論述	30%							30%
フィードバックの方法	小テストは、終了後に解説し、集計後に得点を通知する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
教養は人生を豊かなものにします。社会に出ると教養の勉強をする時間を確保するのは難しくなるので、学生時代のうちにしっかりと勉強しておきましょう。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	ソクラテス以前とソクラテス	「ソクラテス以前とソクラテス」の復習と「プラトンとアリストテレス」の予習	60分
2	プラトンとアリストテレス	「プラトンとアリストテレス」の復習と「古代から近代へ」の予習	60分
3	古代から近代へ	「古代から近代へ」の復習と「大陸合理論」の予習	60分
4	大陸合理論	「大陸合理論」の復習と「イギリス経験論」の予習	60分
5	イギリス経験論	「イギリス経験論」の復習と「カント1」の予習	60分
6	カント1（超越論的認識について）	「カント1」の復習と「カント2」の予習	60分
7	カント2（超越論的弁証論）	「カント2」の復習と「ヘーゲル」の予習	60分
8	ヘーゲル	「ヘーゲル」の復習と「マルクス」の予習	60分
9	マルクス	「マルクス」の復習と「ニーチェ、フッサール」の予習	60分
10	ニーチェ、フッサール	「ニーチェ、フッサール」の復習と「ハイデッガー」の予習	60分
11	ハイデッガー	「ハイデッガー」の復習と「フロイト、ユング」の予習	60分
12	フロイト、ユング	「フロイト、ユング」の復習と「フーコー」の予習	60分
13	フーコー	「フーコー」の復習と「ムーア」の予習	60分
14	ムーア	「ムーア」の復習と「ウィトゲンシュタイン」の予習	60分
15	ウィトゲンシュタイン	「ウィトゲンシュタイン」、および、授業全体の復習	60分

⑫ アクティブラーニングについて	
知識定着・確認型 AL を採用する。毎回、前回の課題に関する小テストを行う。小テストは、終了後に解説し、集計後に得点を通知する。	

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性